

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名 国際映像メディア専門学校
 設置者名 学校法人国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養 専門課程	映画プロデュース科	夜・通信	3447	320	
	テレビ映像・動画制作科 テレビ制作コース	夜・通信	1731	160	
	テレビ映像・動画制作科 舞台スタッフコース	夜・通信	1731	160	
	テレビ映像・動画制作科 ドローン・撮影技術コース	夜・通信	1731	160	
	声優アクターズ科 声優コース	夜・通信	1731	160	
	声優アクターズ科 Vチューバー声優コース	夜・通信	1731	160	
	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	夜・通信	1731	160	
	声優アクターズ科 声優アーティストコース	夜・通信	1731	160	
	映像・演技研究科	夜・通信	856	80	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ	https://www.i-media.cc/common/pdf/curriculum_list_3.pdf
--------	---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際映像メディア専門学校	
設置者名	学校法人国際総合学園	

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ	https://www.i-media.cc/common/pdf/member_kokusai02.pdf
--------	---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	会社役員	2019年6月1日～ 2023年5月31日	教育統括的観点
非常勤	大学教授	2019年6月1日～ 2023年5月31日	教育統括的観点
非常勤	団体職員	2019年6月1日～ 2023年5月31日	政策的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際映像メディア専門学校	
設置者名	学校法人国際総合学園	

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。</p> <p>① 9月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。</p> <p>②11月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映</p> <p>③12月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診</p> <p>④ 2月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定</p> <p>⑤ 3月：HPにてシラバス公表 https://www.i-media.cc/information/syllabus 新入生・進級年次生は4月オリエンテーションにてシラバスを配布</p>	
授業計画書の公表方法	
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。</p> <p>①学科毎に、学期末毎に、課題・試験等による学期末考査を行う(年2回)</p> <p>②学期末考査を受ける者は、各科目毎に出席率80%以上である必要がある</p> <p>③成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)で、D評価を不可とする</p> <p>④内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。 ただし、別途追試験・追課題の審査料として1科目につき4,000円を請求する。</p> <p>⑤学修成果の評価は成績表としてまとめ、保護者宛に郵送する</p> <p>⑥上記に加え、年度末に行われる「進級判定会議」において、修了課題・公演の評価と共に、最終的な進級・卒業認定判断を行う。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。 その平均点 (G P A) により、成績の分布状況を把握する</p> <p>①成績評価の数値化は、以下の通りとする A : 4、B : 3、C : 2、C- : 1、D : 0 (履修不可) ※C-は、規定に従い、追試・追課題によって単位修得を認めた場合の評価である</p> <p>②G P Aの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/result_2.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 映画・テレビ・声優・歌手・俳優等、各業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。 その目的に従い、各科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。</p> <p>①出席率：学科毎の出席時間数の80%以上（各教科）出席していること ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること ③卒業制作／公演：評価 C 以上を取得していること ④授業料その他納付金に未納がないこと ⑤内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。 ただし、別途追試験・追課題の審査料として、1科目につき4,000円を請求する。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/result_2.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際映像メディア専門学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf
財産目録	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf
事業報告書	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf
監事による監査報告（書）	ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/zaimu.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	映画プロデュース科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3447 単位時間/単位	528 単位時間 /単位	1376 単位時間 /単位	1543 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3447 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
38人		13人	0人	1人	16人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
<p>授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。</p> <p>① 9月：学科毎に「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。</p> <p>② 11月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映</p> <p>③ 12月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診</p> <p>④ 2月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定</p> <p>⑤ 3月：HPにてシラバス公表 https://www.i-media.cc/information/syllabus 新入生・進級年次生は4月オリエンテーションにてシラバスを配布</p>

成績評価の基準・方法

- (概要)
- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
 - ②成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)、D評価は不可
 - ③内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。
 - ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。その平均点(GPA)により、成績の分布状況を把握する
 - ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0(履修不可)
※C-は、規定に従い、追試・追課題によって単位修得を認めた場合の評価である
 - ⑥GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

- (概要)
- 映画・テレビ業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。
- その目的に従い、各科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。
- ①出席率：学科毎の出席時間数の80%以上(各教科)出席していること
 - ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること
 - ③卒業制作/公演：評価C以上を取得していること
 - ④授業料その他納付金に未納がないこと
 - ⑤内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。
- ただし、別途追試験・追課題の審査料として、1科目につき4,000円を請求する。

学修支援等

- (概要)
- ・個別相談の定期実施+放課後校舎利用+授業・課題制作相談および指導
 - ・3者進路相談会実施を主とする保護者との連携
 - ・スクールカウンセリング制度
 - ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	4人 (80%)	1人 (20%)
(主な就職、業界等)			

(就職指導内容) 映画・映像制作会社
(主な学修成果(資格・検定等)) 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、 校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等
(備考)(任意記載事項) 商業映画・TV放映作品への制作スタッフとしての参加。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由) 退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	テレビ映像・動画制作科 テレビ映像。動画制作コース ドローン・撮影技術コース	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1731 単位時間/単位	192 単位時間/単位	616 単位時間/単位	923 単位時間/単位	0 位時間/単位	0 単位時間/単位
	1731 単位時間						
生徒総定員数	生徒実員数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
33人	17人	0人	1人	15人	16人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ② 11月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③ 12月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information/syllabus>
新入生・進級年次生は4月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

(概要)

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)、D評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。その平均点(GPA)により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0(履修不可)
※C-は、規定に従い、追試・追課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

テレビ、映像業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、各科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。

- ①出席率：学科毎の出席時間数の80%以上(各教科)出席していること
- ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること
- ③卒業制作/公演：評価C以上を取得していること
- ④授業料その他納付金に未納がないこと
- ⑤内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。
ただし、別途追試験・追課題の審査料として、1科目につき4,000円を請求する。

学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業・課題制作相談および指導 ・3者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	6人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) テレビ番組・映像制作会社			
(就職指導内容) 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家資格・検定等はなし			
(備考)（任意記載事項） 商業映画・TV放映作品、イベント等での制作現場でのインターンシップ参加。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	1人	5.5%
(中途退学の主な理由) 該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	専門課程	テレビ映像・動画制作科 舞台スタッフコー	○	

		ス					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1731 単位時間/単位	336 単位時間 /単位	616 単位時間 /単位	779 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1731 単位時間				
生徒総定員 数	生徒実員 テレビ制 作科の内 数	うち留学生 数	専任教員 数	兼任教員 数	総教員 数		
33人	11人	0人	1人	9人	10人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。</p> <p>① 9月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。 ② 11月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映 ③ 12月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診 ④ 2月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定 ⑤ 3月：HPにてシラバス公表 https://www.i-media.cc/information/syllabus 新入生・進級年次生は4月オリエンテーションにてシラバスを配布</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。 ②成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)、D評価は不可 ③内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。 ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する ⑤成績評価の数値化は、以下の通り A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可） ※C-は、規定に従い、追試・追課題によって単位修得を認めた場合の評価である ⑥GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。</p>
卒業・進級の認定基準
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

映画・テレビ・舞台等の各業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、各科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。

- ①出席率：学科毎の出席時間数の80%以上（各教科）出席していること
- ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること
- ③卒業制作／公演：評価 C 以上を取得していること
- ④授業料その他納付金に未納がないこと
- ⑤内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、
単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。
ただし、別途追試験・追課題の審査料として、1科目につき4,000円を請求する。

学修支援等

(概要)

- ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業・課題制作相談および指導
- ・3者進路相談会実施を主とする保護者との連携
- ・スクールカウンセリング制度
- ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 舞台制作会社			
(就職指導内容) 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家資格・検定等はなし			

(備考) (任意記載事項)
商業映画・TV放映作品、イベント等での制作現場でのインターンシップ参加。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	声優アクターズ科 声優コース・Vチューバー声優コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1731 単位時間/単位	160 単位時間/単位	884 単位時間/単位	687 単位時間/単位	0 単位時間/単位	629 単位時間/単位
			1731 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	36人	0人	1人	14人	15人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)

授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。

- ① 9月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。
- ② 11月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映
- ③ 12月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診
- ④ 2月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定
- ⑤ 3月：HPにてシラバス公表 <https://www.i-media.cc/information/syllabus>
新入生・進級年次生は4月オリエンテーションにてシラバスを配布

成績評価の基準・方法

(概要)

- ①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。
- ②成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)、D評価は不可
- ③内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。
- ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。その平均点(GPA)により、成績の分布状況を把握する
- ⑤成績評価の数値化は、以下の通り
A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0(履修不可)
※C-は、規定に従い、追試・追課題によって単位修得を認めた場合の評価である
- ⑥GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。

卒業・進級の認定基準

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

映画、テレビ、舞台で声優・歌手・俳優等として活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、各科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。

- ①出席率：学科毎の出席時間数の80%以上(各教科)出席していること
- ②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること
- ③卒業制作/公演：評価 C 以上を取得していること
- ④授業料その他納付金に未納がないこと
- ⑤内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。

ただし、別途追試験・追課題の審査料として、1科目につき4,000円を請求する。

学修支援等

(概要)

- ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導
- ・3者進路相談会実施を主とする保護者との連携
- ・スクールカウンセリング制度
- ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	8人 (42%)	4人 (21%)	7人 (37%)
(主な就職、業界等) プロダクション・養成所入所(進学)。声優、MC、レポーター等。			
(就職指導内容) 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
(主な学修成果(資格・検定等)) 国家資格・検定等はなし			
(備考)(任意記載事項) 在学中数多くの仕事を体験する。TVCMナレーション等			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

37人	1人	2.7%
(中途退学の主な理由) 該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1731 単位時間／単位	160 単位時間 ／単位	616 単位時間 ／単位	955 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	510 単位時間 ／単位
			1731 単位時間				
生徒総定員 数		生徒実員 声優アク ターズ科 の内数	うち留学生 数	専任教員 数	兼任教員 数	総教員 数	
60人		6人	0人	1人	11人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。 ① 9月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。 ② 11月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映 ③ 12月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診 ④ 2月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定 ⑤ 3月：HPにてシラバス公表 https://www.i-media.cc/information/syllabus 新入生・進級年次生は4月オリエンテーションにてシラバスを配布
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。</p> <p>②成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)、D評価は不可</p> <p>③内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。</p> <p>④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。 その平均点(GPA)により、成績の分布状況を把握する</p> <p>⑤成績評価の数値化は、以下の通り A:4、B:3、C:2、C-:1、D:0(履修不可) ※C-は、規定に従い、追試・追課題によって単位修得を認めた場合の評価である</p> <p>⑥GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。</p>
--

卒業・進級の認定基準

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>映画・テレビ・声優・歌手・俳優等、各業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。</p> <p>その目的に従い、各科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。</p> <p>①出席率：学科毎の出席時間数の80%以上(各教科)出席していること</p> <p>②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること</p> <p>③卒業制作／公演：評価 C 以上を取得していること</p> <p>④授業料その他納付金に未納がないこと</p> <p>⑤内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、 単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。 ただし、別途追試験・追課題の審査料として、1科目につき4,000円を請求する。</p>

学修支援等

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および演技等指導 ・3者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

4人 (100%)	2人 (50.0%)	0人 (0.0%)	2人 (50.0%)
(主な就職、業界等) 養成所入所(進学)、地元の劇団に所属しながらフリーランスで生計をたてる。			
(就職指導内容) 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
(主な学修成果(資格・検定等)) 国家資格・検定等はなし			
(備考)(任意記載事項) 在学中数多くの仕事を体験する。TVCMナレーション等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	声優アクターズ科 声優アーティストコース	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1731 単位時間/単位	160 単位時間/単位	616 単位時間/単位	955 単位時間/単位	0 単位時間/単位	579 単位時間/単位
		1731 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員 声優アクターズ科の内数	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		

60人	7人	0人	1人	16人	17人
-----	----	----	----	-----	-----

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> <p>（概要）</p> <p>授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。</p> <p>① 9月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。</p> <p>② 11月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映</p> <p>③ 12月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診</p> <p>④ 2月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定</p> <p>⑤ 3月：HPにてシラバス公表 https://www.i-media.cc/information/syllabus 新入生・進級年次生は4月オリエンテーションにてシラバスを配布</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>① 出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。</p> <p>② 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)、D評価は不可</p> <p>③ 内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。</p> <p>④ さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。 その平均点（GPA）により、成績の分布状況を把握する</p> <p>⑤ 成績評価の数値化は、以下の通り A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0（履修不可） ※C-は、規定に従い、追試・追課題によって単位修得を認めた場合の評価である</p> <p>⑥ GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）</p> <p>映画・テレビ・声優・歌手・俳優等、各業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。</p> <p>その目的に従い、各科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、進級および卒業認定を行う。</p> <p>① 出席率：学科毎の出席時間数の80%以上（各教科）出席していること</p> <p>② 単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること</p> <p>③ 卒業制作／公演：評価 C 以上を取得していること</p> <p>④ 授業料その他納付金に未納がないこと</p> <p>⑤ 内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、 単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。 ただし、別途追試験・追課題の審査料として、1科目につき4,000円を請</p>

求する。
学修支援等
(概要) ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および歌唱等指導 ・3者進路相談会実施を主とする保護者との連携 ・スクールカウンセリング制度 ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	2人 (33.0%)	0人 (0.0%)	4人 (67.0%)
(主な就職、業界等) 研究科へ内部進学、地元でフリーランスで音楽活動			
(就職指導内容) 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー、校内企業説明会及び選考会、年金講座、確定申告講座、等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家資格・検定等はなし			
(備考) (任意記載事項) 在学中数多くの仕事を経験する。アーティストライブ前座公演等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	映像・演技研究科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	856 単位時間/単位	468 単位時間/単位	140 単位時間/単位	248 単位時間/単位	0 単位時間/単位	108 単位時間/単位
	856 単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
4人		12人	0人	1人	15人	16人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要)	
<p>授業計画の作成は、学科毎に専任・兼任両教員によって構成する「教育課程編成委員会」を中心に作成・審議を行い、関係企業・学校関係者評価委員等の意見を反映させながら最終決定するものとする。</p> <p>① 9月：学科毎に、「教育課程編成委員会」開催後、翌年度授業計画案を作成開始。 ② 11月：教育課程編成委員会・非常勤講師の意見を反映 ③ 12月：修正案取纏め・各科目担当選定、科目担当毎の内容精査。非常勤講師打診 ④ 2月：タイムテーブル調整後、学校関係者評価委員の最終確認・決定 ⑤ 3月：HPにてシラバス公表 https://www.i-media.cc/information/syllabus 4月オリエンテーションにてシラバスを配布</p>	
成績評価の基準・方法	
(概要)	
<p>①出席率・授業姿勢・課題の完成度・試験結果の項目を、科目毎にシラバスに設定された割合により総合的に判定をする。 ②成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)、D評価は不可 ③内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。 ④さらに、履修科目の成績評価を数値化し、全科目の合計点の平均を算出。 その平均点(GPA)により、成績の分布状況を把握する ⑤成績評価の数値化は、以下の通り A：4、B：3、C：2、C-：1、D：0(履修不可) ※C-は、規定に従い、追試・追課題によって単位修得を認めた場合の評価である ⑥GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。</p>	
卒業・進級の認定基準	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p>映画・テレビ・声優・歌手・俳優等、各業界を中心に活躍できる専門技能、知識および、社会人としての一般教養を身に付け、コンテンツ産業を支え、</p>	

日本が世界に誇る芸術・文化を世界に発信する事を通じて、国際間の相互理解促進に寄与し得る人材育成を目的とする。

その目的に従い、各科目毎の成績評価を行い、そのうえで卒業認定の審査項目として①～⑤を定め、年度末に全校の教育課程編成委員による「卒業判定会議」を実施、卒業認定を行う。

①出席率：学科毎の出席時間数の80%以上（各教科）出席していること

②単位取得基準：学科毎の必要科目の単位をすべて取得していること

③卒業制作／公演：評価 C 以上を取得していること

④授業料その他納付金に未納がないこと

⑤内容不十分、出席率不足等によりC評価に達しない科目を有する学生には、

単位取得の機会を与える為、科目毎に追試験・追課題を課す。

ただし、別途追試験・追課題の審査料として、1科目につき4,000円を請求する。

学修支援等

（概要）

- ・個別相談の定期実施＋放課後校舎利用＋授業相談および歌唱等指導
- ・3者進路相談会実施を主とする保護者との連携
- ・スクールカウンセリング制度
- ・学費・寮費等相談者への奨学金や各種ローンの相談

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (100%)	1人 (25.0%)	0人 (0%)	3人 (75.0%)
(主な就職、業界等) プロダクション・養成所入所(進学)。フリーランスのMC、レポーター、アーティスト。			
(就職指導内容) 担任によるキャリアカウンセリング、業界研究、進路セミナー 校内企業説明会及び選考会 等			
(主な学修成果(資格・検定等)) 国家資格・検定等はなし			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者 の数	中退率
4人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) 該当者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常的な出欠席管理・保護者との情報共有、担任・副担任・教務部部長による個人相談、非常勤教員との情報共有、外部カウンセラーによるスクールカウンセリング制度		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
映画プロ デュース 科	70,000 円	640,000 円	480,000 円	施設設備費・施設維持費
テレビ映 像・動画 制作科	70,000 円	640,000 円	480,000 円	施設設備費・施設維持費
声優アク ターズ科	70,000 円	640,000 円	460,000 円	施設設備費・施設維持費
映像・演 技研究科	70,000 円	330,000 円	160,000 円	施設設備費・施設維持費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ https://www.i-media.cc/common/pdf/h30_hyouka_self.pdf
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 専門学校の教育の質の向上を図り、学校運営の健全性、透明性、信頼性を高めるため、学生、学生保護者、専門分野企業、業界団体から委員が参画し学校評価を実施。また、学校情報の公開推進に取り組み、専門学校に対する社会的・業界的な信頼を高めることを目指す。 ・修了・卒業制作発表・公演 (2 月第 2 週前後) と同時期に評価委員会を開催。 ・以下の 10 項目に関して、評価表を元に、全ての科目履修成果の集大成である修了・卒業制作/公演の評価、学生授業アンケート・保護者アンケート・退学抑止状況等資料を元に、質疑応答の上、評価・採点を行う。 ・採点は、適切 4 点、ほぼ適切 3 点、やや不適切 2 点、不適切 1 点とする。 ・評価委員会での結果は自己評価表にまとめて学校ホームページに掲載する。 ・評価委員会での結果は教職員会議でも共有、次年度教育課程・シラバスに反映させる。
学校関係者評価の大項目 ①教育理念・目標 (学校の理念・目的・育成人材像は定められているか 等) ②学校運営 (教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 等) ③教育活動 (関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携がなされているか 等) ④学修成果 (業界就業率・企業就職率の向上が図られているか 等) ⑤学生支援 (進路・就職に関する支援体制は整備されているか 等) ⑥教育環境 (施設・備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 等)

⑦学生の受入れ募集（学生募集活動は適正に行われているか 等） ⑧財務（予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 等） ⑨法令等の遵守（自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 等） ⑩社会貢献・地域貢献（学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか 等）		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ハビッツ	任期は特に設けず、年度末時点で、諸事情により、委員辞任の申し出が無い場合は、年度毎に自動的に継続するものとする。	企業等委員
有限会社アペックス・株式会社オールウェイズ	任期は特に設けず、年度末時点で、諸事情により、委員辞任の申し出が無い場合は、年度毎に自動的に継続するものとする。	企業等委員
新潟県フィルムコミッション協議会	任期は特に設けず、年度末時点で、諸事情により、委員辞任の申し出が無い場合は、年度毎に自動的に継続するものとする。	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 公表時期…毎年7月(翌年度)を目途に自校HPにて公開 https://www.i-media.cc/common/pdf/h30_kigyuu.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.i-media.cc/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	国際映像メディア専門学校	
設置者名	学校法人国際総合学園	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		14人	0人	14人
内 訳	第Ⅰ区分	8人	0人	
	第Ⅱ区分	2人	0人	
	第Ⅲ区分	4人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				14人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当し

たことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。